

米軍機給油の「覚書」破棄求める 小牧基地強化やめよと 350 人

航空自衛隊小牧基地の機能強化に反対する「第15回小牧平和県民集会」が10月30日、小牧市之久田中央公園で開かれ、350人が参加しました。

主催者あいさつにたった実行委員長の藤山譲司・尾張中部地区労連議長は「小牧基地に空中給油機 KC767 空中給油機が4機配備されるなど、自衛隊の侵略的機能強化が着々と進んでいます。自衛隊空中給油機による米軍機給油はどんな名目でも許されません。小牧基地を米軍の支援基地にしてはならない」とあいさつしました。

日本共産党の井上哲士参院議員は、防衛省から入手した「空中給油訓練に関する航空自衛隊と太平洋空軍との間の了解事項に関する覚書」の現物を手にして「防衛省は重大な【覚書】を1年間も明らかにしなかった。平和を願う県民の願いを踏みにじるような態度は許されない」ときびしく指摘しました。さらに井上氏は「小牧基地が戦争基地として強化されていることはきわめて重大。航空自衛隊がアメリカと一体になっていつでも戦争できる訓練体制を作るのが【覚書】です。アラスカで行う空中給油訓練は、他国の領土に進出しておこなう憲法違反の戦闘行為そのものです。【覚書】は撤回させましょう」と訴えました。

参加者は、空中給油機の配備と基地機能強化に反対する集会宣言を採択。小雨の中、市内をパレードしました。航空自衛隊小牧基地正門前で採択された宣言文を小牧基地指令あてに届けました。

